



展示室に入ると、来館者を出迎えるのは巨大なスクリーン。迫力あるCGやアニメーションで、まちの移り変わりや市の歴史を分かりやすく紹介。

あつまる・つながる 開館に向けてご協力いただいた皆さんへのインタビュー



三福学校部材の左官作業

古民家の再生に興味を持っていて、復元作業に関わりたいて考えていたところ、担当教授から博物館に展示する三福学校の復元プロジェクトを紹介されたことがきっかけとなり参加しました。実際の作業は非常に楽しく、やりがいを感じました。博物館という大きなスケールで、かつ後世にずっと残るものに仕事として携われたことに喜びを感じています。

ものづくり大学 4年生
つづく 裕次郎さん

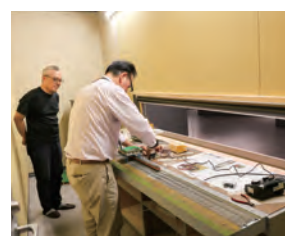


伝承はたおり綾の会 代表
なかざと よしこ
中里 美子さん



旧上福岡歴史民俗資料館で展示していた機織り機を新しい博物館で展示するにあたり、旧資料館で36年前に自分たちが機に糸をかけて、今回は古くなった糸をかけ直す作業をしました。これまで長年続けてきた活動の集大成として、責任を持って取り組みました。今後とも機織り体験など博物館の活動に協力できたらいいなと思っています。

展示する機に糸をかける作業



模型の設置作業

上福岡駅周辺の昭和頃風景を鉄道模型を中心としたジオラマで表現するにあたり、一番大切にしたいのは「当時のような街だったのかをできるだけ多くの方に身近に感じてもらう」ということです。今後は若い世代の皆さんと一緒に仕上げ作業を行います。ジオラマを見て・触れて・つくる体験を通じ、多くの方が地域の歴史に興味を持ち、これからのふじみ野市を考えるきっかけになることを願っています。

（株）カトー
かたおか かずひろ
片岡 和宏さん



あつまる・つながる

ふじみ野市立博物館オープン

9月1日、ふじみ野市に博物館が誕生しました。

資料の展示だけでなく、映像や体験を通して歴史と文化を一体的に学べ、「あつまる・つながる」をコンセプトとして人や文化がつながっていく場所となることを目指す、ふじみ野の新しいスポット、博物館を紹介します。

図 博物館 ☎049・263・3111



オープニングセレモニー

人と文化がつながり
進化する博物館

市立博物館の開館にあたっては、地域ゆかりの資料の提供や、体感できる縄文土器のレプリカの寄贈、展示品の準備作業など、多くの人に協力いただきました。

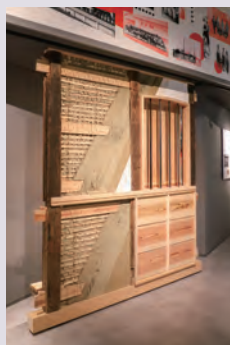
オープン後も、常設展示室に展示している鉄道模型のジオラマの一部をボランティアの皆さんと作っていく企画を予定しています。ギャラリーでは、博物館主催の企画展を開催するほか、市民の皆さんの発表や展示の場として提供していきます。

また、採光がたくさん取り入れられた体験学習スペースでは、着物の着付け体験、土器立体パズルや竪穴住居の組み立て体験などができ、子どもから大人まで楽しみながら歴史を体感することができます。

「あつまる・つながる」博物館は、市の歴史や文化を振り返るだけでなく、人が集い、つながる場として、文化を発信しながらこれからも進化していきます。

ぜひ気軽にお立ち寄りください。

ここに注目



明治15(1882)年に建築された三福学校の部材を用いて左官の技術を再現しています



昭和の中頃の上福岡駅周辺の風景を表現したジオラマ。これからボランティアの皆さんと一緒に作り上げていきます。13ページをご覧ください



明治時代が幕を開け、新たに「大井村」と「福岡村」が誕生しました。また、東武東上線の前身である東上鉄道が開通、無線福岡受信所や陸軍造兵廠も造られました。戦後は大型団地の形成や企業の進出などをきっかけにまちづくりが進められ、現代の姿へとつながっていく様子を紹介しています。



竪穴住居と土器の組み立て体験(体験学習スペース)



楽しさがいっぱい!遊びにきてね



2F

1F



開館時間

午前9時～午後4時30分
※体験学習スペース、会議室などの貸室は午後8時まで。詳しくは、市ホームページをご覧ください。

休館日

月曜日(祝日の場合は翌平日)、年末年始(12月28日～1月4日)

入館料

無料

アクセス

- 大井中央2・19・5
- ふじみ野駅西口から東武バス「大井循環」行きで「文京学院大学前」下車徒歩1分、上福岡駅西口からふじみん号Dコース「市民憩の森前」下車
- 専用駐車場普通車57台分(無料)



常設展示室5つのテーマ

ここに注目



左右に連なる土器のトンネル。市内で発掘された土器のさまざまな文様や形を間近に観察できます



キラキラ輝く土器(縄文時代中期)が来館者を迎えます



旧石器時代、火山灰が降り積もる厳しい環境下で人々の生活が始まりますが、縄文時代になると気候が温暖化し、山や海の恵みを受けて集落での豊かな暮らしが営まれます。稲作が始まると地域を支配する者が登場し、やがて古墳が築造され地域の中心となり、奈良時代には開拓に不可欠だった鉄生産も行われました。ここでは、市の先史時代から中世までのあゆみを紹介しています。



市域を流れる新河岸川沿いには、古くから生活用水や川が育む自然の恵みなどを求め、人々が集まってきたことがうかがえます。ここでは、江戸時代から明治時代にかけて舟運が発展し、新河岸川が「川のみち」として商品の流通、経済の発展、文化の発達をもたらした様子を紹介しています。

ここに注目



床面に注目すると、川越街道大井宿と荷船の模型の間に、かつての江戸～川越間の陸と川のみちが描かれています

ここに注目



市域を通る国道254号線は「川越街道」とも呼ばれ、15世紀に築造された河越城から江戸城へ向かうために設けられた道がもたらしたと考えられます。ここでは、明治時代まで「陸のみち」の拠点としてにぎわいをしていた川越街道の宿場の一つである大井宿を中心に近世から近代の市の歴史を紹介しています。

ここに注目



かやぶき萱葺屋根の民家で生活空間を再現しています



農具のほか、かつて市域で盛だったほうき作りや機織りの道具などを紹介しています

市域は、かつては田畑が広がる農作地帯でした。市内を流れる川には魚類も数多く生息し、雑木林は肥料となる落ち葉や燃料となるマキを拾う場でした。ここでは、豊かな自然とともに生きる人々の生業や豊作祈願、収穫への感謝を大事にして執り行われた祭りや年中行事を紹介しています。

